

あらきニュース

Ryusho Araki News

発行: 福岡市議会議員 あらき龍昇

〈2022夏秋号〉

No.80



[p2]須崎公園の請願は否決! 学校給食費の無償化を求める意見書は可決! / [p3]カジノ誘致は許されない!

「元気な福岡市」は本当? 高島市政3期12年を検証

福岡市は、起業支援や企業誘致、都心部の再開発やマンション建設が相次いでいます。しかし、「都市の成長」に伴い、私たち市民の暮らしは本当に豊かになったのでしょうか? 数字で検証します。

- ▶ 雇用者所得は頭打ち。課税平均所得は全国129位 (2018年「市民経済計算」、2020年厚労省資料など)
- ▶ 非正規雇用は、全国平均37.3%よりも高い38.1% (2017年「就業形態調査」)
- ▶ 世帯収入300万円以下の世帯の割合は、全国平均34%よりも高い40% (2018年「住宅・土地調査」)
- ▶ 要保護・就学援助児童の割合は、全国平均14.4%を大きく上回る23.6% (2022年度)

これらの数字を見ると、企業活動は元気でも市民生活には格差と貧困が広がっているといえます。非正規雇用や低賃金構造を進めたことが背景にあります。

教育環境や住環境が悪化!

無秩序なマンション建設は児童数を増やし、過大規模校(学級数31以上)が急増しています。2010年は小学校7校のみでしたが、2022年には小学校23校、中学校5校となり、教室不足や運動場の狭隘化(きょうあいか)など、教育環境が悪化しています。

また、市街化区域における緑地(永続性のある樹林地)は、2007年は138ヘクタールあったものが、2017年には124ヘクタールと減っています。都心部の緑地の減少はヒートアイランド現象を激化させ、地球温暖化に拍車を掛ける悪循環となっています。



高島市政3期 12年の課題は…

- 格差と貧困が広がった
- 教育環境や住環境が悪化した
- 地球温暖化対策が不十分

暮らしの声を市政につなぐ。

あらき事務所

092-862-8980

〒814-0033 福岡市早良区有田5-17-7

メール f-lopas@hf.rim.or.jp / FAX.092-862-8985



森あやこ ニュース

発行: 福岡市議会議員 森あやこ

Ayako Mori News

No.28



[p2] 須崎公園の請願は否決! 学校給食費の無償化を求める意見書は可決! / [p3] カジノ誘致は許されない!

地球上に放出されたごみは、 廻りめぐって私たちの回に 戻ってきます!

近年、マイクロプラスチックが人の肺や胎盤、新生児の胎便などから見つかっています。人の小腸培養組織を用いた実験で、マイクロプラスチックは血管とリンパ管に侵入したと2020年に日本の研究チームは報告し、オランダの研究チームは今年3月に、人の血液中からも発見した、と学術誌に掲載しました。大気・水質・土壤すべての環境が清らかなことがいのちと健康にとって重要です。まさにワンヘルスです。

環境等に配慮した グリーンな商品や サービスの購入をするなど ≡エシカル(倫理的な)消費

市民にはまだ浸透していない言葉ですが、自治体は「グリーン購入ガイドライン」を策定してエシカル消費に取り組んでいます。また、企業も地球環境や労働や福祉などの社会的なことに配慮・貢献したサービスや商品の開発に取り組むところも増えてきました。



← 録画のページです。



※6月議会では「ごみ減量の取り組みと福岡市グリーン購入ガイドラインについて」一般質問(17日)を行いました。議会の様子は録画や議事録で確認できます。

生きものにとって、 地球にとっての大問題!!

1960年代から1973年までが、高度成長期と言われます。1970年代になって、科学の進歩に伴い地球の大気のしくみについて理解が進み、地球温暖化が深刻な問題として、科学者の間でも注目され、1992年5月「気候変動枠組条約」が、国連総会で採択され、同年6月「地球サミット」で署名が開始され、94年3月に発効されています。この半世紀の間に様々なことが議論されてきましたが、深刻さは増しています。



地球の46億年もの長い歴史からすると、ほんの一瞬でしかない人類。その時代にとっては必要な開発もあったと思いますが、物質の豊かさと引き換えに、環境ホルモンやダイオキシンの問題を起こし、地球は気候危機、生きものにとっては健康被害…。

私たち一人ひとりがいのちのことを 考えたグリーン購入を!

製造する過程から廃棄までの、環境負荷はどのようなのか、いのちと健康を蝕まないものを購入する意識を高めて、みなさんも今日からできることを一つでも増やしてくださいね!

生活って政治! 「住んでるまちを 住み続けられるまちに」市民とともに

「暮らしのための議会」を実現するため、皆さんのご意見や思いを聞かせてください。

事務所

092-662-5077

〒813-0044 福岡市東区千早5-17-18 TKビル2号館1階

FAX.092-662-5097

— このニュースは、議員活動の一環として、税金から賄われる「政務活動費」を用い発行しています —



森あやこ 公式ブログ

<http://ayako966.blog.fc2.com/>

暮らしと環境を守る福岡市政に!

再開発事業は、もっと地球環境へ配慮を!

(6月定例会 議案第106号 建築物の制限に関する条例改正案)

博多駅前の再開発事業に関して地区計画(開発のあり方)が定められました。都心部における歩行者空間確保のための容積率緩和は理解できますが、気候危機対策や都市緑化政策が不十分な改正だと考え、反対しました。再開発で床面積が1.7倍となり、特段の対策を

取らなければ、エネルギー消費量も1.7倍になります。ましてや、本市は国よりも10年早い2040年までの「実質ゼロ」をめざしています。温暖化問題に限らず、地球環境負荷への対策をしっかりと盛り込むべきです。

もっと生活支援・事業者支援を!

今回の補正予算は、国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を財源とした支援策です。物価上昇もあり、生活にお困りの方がさらに増えており、今回の補正予算は賛成ですが、さらなる支援が必要だと主張しました。

(6月定例会 議案第90号 一般会計補正予算案)

2021年度の本市の決算は黒字で、「財政調整基金」などの基金が積み増しされています。それらを取り崩し、学校給食費の無償化や事業者の家賃補償など、市民生活や地場中小事業者の支援の拡充を求めました。

5月臨時議会でも、補正予算が成立!

ひとり親世帯や住民税非課税の子育て世帯に対する支援策などに関する補正予算が成立しました。私たち

も賛成したうえで、十分な周知と迅速な給付、市独自の生活困窮者支援策などを求めました。

議会TOPICS

須崎公園に関する4つの請願は、すべて否決!

須崎公園での樹木伐採を受けて、公共工事のあり方や市民参画の仕組みづくり、「新・緑の基本計画」の更新に関して市民から4つの請願が出されていました。5月16日と6月3日に委員会審査が行われ、荒木・森両議員がそれぞれの請願の筆頭紹介議員として趣旨説明を行いました。結果は、自民党が強硬に採決を求めた結果、すべて否決されました(共産党は賛成)。賛否が分かれる場合は継続審査となることが多いのですが、今回否決させる意味はいったいどこにあったのでしょうか? 議会は市民感覚を取り戻さなければ、まちや人の心が崩れてしまうと危惧します。

18歳・22歳の若者約3万人分の名簿が自衛隊へ!

6月8日、18歳・22歳の若者29,451人分の個人情報(氏名・住所)が自衛隊へ提供されました。今年で3年目。毎年約3万人の個人情報が、本人同意のないまま提供されています。除外申請の制度があるものの、知っている市民は少なく、周知が不十分です。

議員定数特別委員会が始まる!

議会基本条例は進まず。

2020年の国勢調査の結果をもとに議員定数を議論する特別委員会がスタートします。福岡市は人口が増えており、私たちは議員報酬を減らしたうえで、人口増に見合った定数に増やすほうが市民の皆さんのお意見が反映される議会構成に近づくと考えています。

一方、2015年から行われている議会基本条例などの議論はほとんど進んでおらず、来期へ持ち越しとなりそうです。

学校給食費の無償化を

求める意見書が1票差で可決!

6月議会では5本の意見書案が提案され、3本が賛成多数で可決しました。中でも、私たち会派も共同提案した「学校給食費の無償化を求める意見書」は1票差で可決することができました。



森あやこ 議員



ごみ減量の取り組みと 福岡市グリーン購入ガイドラインについて

ごみ減量対策として、①リデュース(発生抑制)、②リユース(断る)、③リユース(再利用)、④リサイクル(再資源化)を「4R」と言いますが、このうち福岡市では「循環のまちふくおか推進プラン」の中で、①リデュース(②リユースを含む)と③リユースの「2R」に重点を置いていることから、リユースに優れたびんの「デポジット制」(※1)の促進のための環境整備を求めました。

また、福岡市のグリーン購入ガイドライン(「エシカル消費」)(※2)を自治体がすすめるための方針)をより多くの市民が知り、実践できるような取り組みの強化を求めました。そして、無料給水スポットの設置(マイボトルの促進)や市民から集めたプラスティックごみ削減の工夫やアイデアの紹介(プラスティックごみ削減アイデアコンテスト)など、市の2R促進の取り組みがもっと市民に届く発信となる工夫を求めました。

さらに、2040年度カーボンニュートラルをめざした「福岡市地球温暖化対策実行計画」の市民の市民意見(パブリックコメント)の募集が行われます(※3)。市民全員が計画を共に作り、実践する当事者となれるよう強く求めました。

※1: 製品価格に一定金額の「デポジット(預託金)」を上乗せして販売し、容器使用後に返却された時に預託金を返却することにより、容器の回収を促進する制度。

※2: 環境・人・社会・地域等に配慮した消費行動のこと。

※3: 7月31日締切りですので、ぜひみなさんの

ご意見をお寄せください!



あらき龍昇 議員



▶超高齢社会— 特に単身高齢者への支援の充実を!

高齢者のみの世帯(単身高齢者世帯も含む)が増えています。地域包括支援センターや社会福祉協議会などによる見守りや支援がなされていますが、相談を受けることが多い、市政にとって重要な課題です。今回、以下の3点について市の考え方や対応を確認しました。

Q. 入院費の保証人で困っている!

A. 医師法で「身元保証人等がないことを理由に入院を拒否してはならない」とされている。市も周知を図っている。

Q. 地域包括支援センターへ連絡がつきにくい!

A. 開設時間外の対応については、21時までは専門の窓口で電話相談を受け付け、21時以降は保健所夜間通報ダイヤルで対応している。

Q. 単身高齢者の認知症の早期発見が大事!

A. 地域における見守り活動や、地域包括支援センターをはじめとした関係機関の連携が重要。引き続き、保健師も含めた様々な関係機関と連携していく。

各区役所で単身高齢者の生活状態の把握と支援の連携を図り、見守りと支援をさらに充実させていくことが必要です。

▶市民や議会を無視して、 カジノ誘致は許されない!

高島市長は3月議会で「検討していない」と答弁をしましたが、その後3月30日に米国企業が「IR事業を福岡市で行う」という記者会見を行いました。そこで、改めて6月議会で市の考え方を質したところ「検討していない」「計画書は受け取っていない」との答弁が繰り返されました。

行政や議会で検討されていない状況で、民間企業が勝手に準備を進めることは住民無視であり、問題です。高島市長は、もっと明確に「NO」の意思表示をすべきです。



ふくおか 緑の党ニュース

2022 夏秋号 <No.2>

ほんかわ
知明

あらき
龍昇

緑の党
グリーンズジャパン

何があっても「大丈夫!」と言える福岡市へ!

街頭で議会報告のニュース(チラシ)などを配つていると、「結構です」「大丈夫です」と言って断られることがよくあります。しかし、本当に「大丈夫」なんでしょうか?

また、ある市議会議員から「投票率が低いのは、生活に不満がないから。だから問題ない」と言われたことがあります。しかし、本当にそうでしょうか? 介護や福祉、保育、教育、医療、文化芸術、職場の現場はどうですか?

この2年半のコロナ禍を通して、「自己責任・自助」だけでは限界があり、「助け合い・支えあい(共助)」や「行政の支援(公助)」が大事だと感じた方も多いと思います。自死される方や鬱になられる方は、その人の責任なのでしょうか? いいえ、違います。私たちは「政治の失敗」の結果であり、政治の責任だと考えます。

心の底から「大丈夫!」「心配ない!」と言える福岡市にしていきましょう!

あなたの声が市政を動かす、そんな仕組みをつくります。

私たちは「草の根の民主主義」を大切にしています。誰かカリスマ的なリーダーが変革していくのではなく、市民一人ひとりが、それぞれの場で声を上げ、行動していくことが大事だと考えています。

「そんな時間なんてない!」

たしかに、いまの日本人の働き方のままでは、その

とおりだと思います。

しかしヨーロッパなどでは政策的に労働時間を短くしていっています。そして、**自治会活動やボランティア活動に参加し、文化芸術に触れる時間を増やしていく**。そういう「豊かな」福岡市にしていきたいと考えています。

議員定数の削減は、本当に議会改革なの?

議員の数が減るとますます「一部の人しか議員になれない」ことになります。そうではなく私たちはもっと市民の声を反映させていく議会にするために、議員の数を増やし、普通の市民も議員になれるようにしていくべきだと考えます。議員報酬を削減し、定数は人口増に合わせて調整すべきです。

一緒に参加してみませんか?

自然や子どもたちの未来を守るために



ふくおか 緑の党の主な活動

- ・学校給食の無償化とオーガニック化をめざす
- ・自然や緑を守る(須崎公園・舞鶴公園など)
- ・原発や石炭火力発電をなくし、再生可能エネルギーを増やす
- ・生活と政治をつなぐ(議会改革、生活交通問題など)





代表 小鴨由水

8/5(金)10~12時 | 開催!

第15回 ガミガミ言わずに育てる方法 & お片付け講座

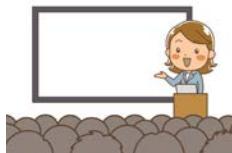
半信半疑だったお母さんたちが、講座終了後には「さっそくやってみよう!」と言って嬉しそうに帰られます。コロナ後、保護者、親戚、地域、園や学校とのつながりが薄れ、ちょっとしたことが聞けずに困っているお母さん達の声が届きます。良好な親子関係を築く一助になれば、との思いから6年続けています。



※ブログに案内を載せておりますのでどうぞご覧ください。



母校で、若者へ エールを届けてきました!



6月13日、母校である龍谷大学の特別講義で「人間とスポーツ」というテーマについて、「今を精一杯生きること、やりたい事を見つけて頑張ることで道は開けていくこと、色々な手法で最後まで諦めずにチャレンジすることが大切」と、自分にも言い聞かせるようにお話をしました。いつでも何度もチャレンジできる社会づくりは大人の役割だと思います。(代表 小鴨由水)

スタッフのつぶやき

『福岡市のプラスチックのリサイクルについて』



2022年4月から国において「プラスチック資源循環法」が施行され、福岡市でプラスチック製品の回収モデル事業を実施します。回収場所は市内9か所の公共施設(区役所等)の資源物回収ボックスです。(令和4年5月23日～令和5年3月31日、午前9時～午後5時)これでは例えば東区であれば「和白」や「西戸崎」の人はなかなか持って行けないですね。回収事業の先行きが危ぶまれます。(Y.Y.)

『SOS子どもの村って?カフェ』に参加しました!

「SOS子どもの村」とは、家族と暮らせない子ども達を里親のもとで養育、里親育成講座を開催、子どもと家族やヤングケアラーの相談支援等をしている団体です。私は3年前にボランティア登録を

して参加しています。今回はヤングケアラー相談窓口の現状について伺いました。出張講座もありますので興味がある方は是非HPをご覧下さい。(S.T.)

※1 マークの意味:大きなCはcitizen(市民)を意味しており、市民による市民のための活動を強く志向していることを表しています。全体は地球をイメージして、葉っぱは芽吹くのちや環境保全を意識してデザインしました。／市民ネットワーク福岡とは:社会が高齢化に向かう中、子育て・介護などにたずさわり、日々の暮らしの問題が見えている女性の声が議会にもっと必要!との思いから1991年に立ち上がった政治団体です。市政への要望や議会への請願、陳情の相談も受けています。

